

2020年3月22日

北広島市長  
上野 正三 様

一般社団法人 北海道自然保護協会  
会長 在田 一則  
フォーラム野幌の森  
代表 五十嵐 敏文  
北広島森の倶楽部  
事務局 加藤 和子  
北広島の自然を考える会  
代表 三澤 英一

## 野生動植物等への暴挙である設計変更抗議する

主旨 特別天然記念物「野幌原始林」に隣接する自然環境である裏の沢川の環境を過大に改変・消失する設計変更抗議する、と共にその見直しを求める。

我々は、国の特別天然記念物「野幌原始林」に隣接している自然環境を保全するために、活動を続けている。これまでに、自然保護4団体連名で「北広島市ボールパークへのアクセス道路に係わる要望書」（2019年7月23日付け）を提出した。そこでは、現状の道路ルートに反対であるが、ミチゲーションの考えなどに基づき「エコロード」に配慮した道路整備を求め、具体的な12項目を挙げ、そのひとつで「橋梁やボックスカルバートを多く設置する」ことを要望した。野生動植物の生息環境である河川環境を保全し、道路設置の影響を可能な限り低減する策である。

「ボールパークへのアクセス道路」は、「一般道道きたひろしま総合運動公園線（仮称）」として北海道の事前事業評価を受けている。2019年度第2回公共事業評価専門委員会（7月24日開催）で配布された資料（建設部土木局道路課）の「事業概要図（7ページ）」には、同アクセス道路に4つの橋梁が設置されることが記載されており、審議内容において、**河川環境への負荷の低減を検討したことも要件**とし、異例の3項目の付帯意見を付け「a:要望を行うことは妥当」と了承された経緯がある。

一方で、我々は、昨年11月下旬頃より、貴市に対し、同道路の切土等がわかる詳細な図面の提供を度々申し入れてきたが、本年3月4日ようやく提供された。この図面を調べたところ、「事業概要図」に比べると、橋梁の長さが変わっていることや長大な盛土があることから、貴市に確認したところである。

それによると、「No1 橋梁 L=45m→24.8m、No2 橋梁 L=20m→23.8m、No3 橋梁 L=160m→21.8m、No4 橋梁 L=85m→73.6m、新たな盛土 底部幅58m 長さ180m 高さ8.2m」であることが判明した。

全体として「橋梁の長さを縮小、盛土部分の増大により河川敷環境の消失」の設計変更になっている。この変更は、これまでに確認された希少種を含む動植物の移植等による影響の低減策で埋め合わせできるものではなく、取り返しのつかない河川敷環境の消失であることは明白である。これまでに「エコロード」を要望している立場から、この設計変更は、いかなる理由に拠ったものであろうと、受け入れられない。さらには、強い怒りから、**公共事業事前評価をくぐり抜ける「計略**

ではないかとの疑念まで抱かざるを得ない。

この設計変更は、「路体を嵩上げし、橋梁を延長することで河川敷環境をより多く保全する」「緑化法面面積（切土法面面積＋盛土法面面積）の最小化を求める」等の我々の要望に反するものである。掘削で出る切土量の捨て場的な盛土設計を行い、残土量を最小化するため、またワンスパン橋梁により工期短縮等を目的としているだけであろうと言わざるを得ない。

国総研資料「道路計画における自然環境配慮の充実に向けた事例検討」では、エコロードにおける主な環境配慮方策として「線形や基本的道路構造による工夫」「切土や盛土の最小化」があげられており、具体例として「事例1：トンネル構造の採用による影響の回避、事例2：ルート位置と道路構造の選択による影響の低減、事例3：橋梁構造の採用による影響の低減」があげられている。

[http://library.jsce.or.jp/jsce/open/00039/201111\\_no44/pdf/29.pdf](http://library.jsce.or.jp/jsce/open/00039/201111_no44/pdf/29.pdf)

この度の設計変更は、一民間企業の50周年・20周年記念である「2023年3月開業」を優先するがために自然環境の保全をないがしろにするものであり、到底受け入れることはできない。直近の市民説明会での「北海道日本ハムファイターズ 新球場・ボールパーク進捗報告」のなかの「フェーズ1対象ゾーンにおけるキーワード」に「(1)自然との融合」を掲げている。これは、かつて北広島市案と札幌市真駒内案の二案に関して、球団の共通コンセプトとして「自然との融和・融合」が報道（北海道新聞、2月14日）されたが、現在にも引き継がれているように受け取れる。

貴市が民間企業と共に推進するボールパーク構想が、「自然との融和・融合」を飾り言葉にするのではなく、真摯に標榜するのであるならば、この度の設計変更は撤回すべきである。

繰り返しになるが、野生動植物等への暴挙であり、特別天然記念物「野幌原始林」に隣接する自然環境を過大に改変・消失する設計変更に強く抗議すると共に、見直しを求める。